

G7 気候・環境大臣会合

- **日程**：2021年5月20、21日（オンライン形式）
- **参加国**：G7国（英国が議長）、ゲスト国（豪、印、韓、南ア）
- **日本の出席者**：小泉環境大臣、梶山経済産業大臣、
 笹川環境副大臣、堀内環境副大臣、江島経済産業副大臣



- **概要**：

- 「気候」を冠する初めてのG7環境大臣会合。生物多様性条約COP15及び気候変動枠組条約COP26も念頭に置きつつ、G7の政策の方向性をコミュニケとして取りまとめ。
- 全てのG7メンバーが、2050年までのカーボンニュートラル、及びこれと整合し、大幅に強化された2030年目標にコミット。その上で、全ての国、特に他の主要な排出国に対しNDCを強化するよう要請

- **コミュニケの内容**

- 気候変動、生物多様性等を中心に、エネルギー、循環経済、海洋等、幅広い課題
- 気候変動の分野では、世界の脱炭素に向けた行動を加速すべく、2050年ネット・ゼロ及び2030年目標、資金、COP26交渉等。ネット・ゼロを、エネルギー、交通、産業分野での実施。
- 自然・生物多様性の分野では、自然の主流化、生物多様性条約ポスト2020枠組みの交渉及び実施に向けた取組。

- **日本からの貢献**

- 地方自治体の脱炭素化と国が果たす役割、産業分野のネット・ゼロに関連し「循環経済・資源効率性の原則」の作成を日本から提案。
- 日本が議長を務めた海ごみの専門家会合の結果を基にした今後の取組の強化に言及。

G20 環境大臣会合／気候・エネルギー大臣会合



- **日程**：2021年7月22日（環境大臣会合）、23日（気候・エネルギー大臣会合）
- **場所**：イタリア・ナポリ（一部の国はオンライン参加）
- **参加国**：G20国（イタリアが議長）
ゲスト国（スペイン、オランダ、シンガポール等）
- **日本の出席者**：小泉環境大臣、
（気候・エネルギーのみ）長坂経済産業副大臣、鷲尾外務副大臣



● 概要：

- 新型コロナウイルス感染症パンデミック後の初の物理的開催による気候・環境閣僚会議。
- 世界のGDP及びCO₂排出の8割を占めるG20メンバーが、生物多様性条約COP15及び気候変動枠組条約COP26を念頭に置きつつ、G20の政策の方向性をコミュニケとして取りまとめ。

● コミュニケの内容

- 環境大臣会合コミュニケ：2030年30%保全目標（30by30）、自然を活用した解決策（Nature-based Solutions）、海洋保全、海洋プラスチック、循環経済等、幅広い課題
- 気候・エネルギー大臣会合コミュニケ：気候変動との戦い、コロナ危機からの回復、エネルギー移行、資金、技術イノベーション、都市等

● 日本からの貢献

- 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン及びG20実施枠組みへの日本の貢献を各国は高く評価
- 循環経済・資源効率性のベストプラクティス等を共有するポータルサイトの作成を日本から提案。また、官民連携による「循環経済パートナーシップ」について発信。

G20資源効率性対話ロードマップ

- G20環境大臣の要請を受けて、2019年10月、日本で開催されたG20資源効率性対話会合において策定。
- G20資源効率性対話の活動をより効果的に推進するためのロードマップ。

1. 様々な行動と優良事例の継続的な共有

- ・G20議長国によるG20資源効率性対話の開催
- ・ロードマップの下での具体的活動の推進

2. 資源効率性政策の強化・主流化

3. 資源効率性の測定手法の改善

4. イノベーションの促進と機会の創出

5. 多様なステークホルダーの参加促進

6. 他の国際イニシアティブとの協力・連携

7. G20海洋プラスチックごみ対策実施枠組との共働

- ・実施枠組のフォローアップ作業の促進

G20 メンバー	課題・活動
EU	プラスチック、繊維及び建設資材 価値保持プロセス 水資源 非財務報告 サステイナブル・ファイナンス
イタリア	グリーン公共調達(GPP)
日本	アジア太平洋及びアフリカ地域における資源効率性向上に関する国際協力
英国	持続可能な生産
米国	二次資源市場の開発・奨励 食品ロスと食品廃棄物

参考:「循環経済パートナーシップ(J4CE)※」の活動状況



登録状況 (※6月末時点)

- ・参加企業 : 105社
- ・参加団体 : 13団体
- ・合計 : 118

※環境省、経産省、経団連により立ち上げた、循環経済への理解醸成と取組の促進等を目指した官民連携のパートナーシップ

今後のスケジュール (取組事例の収集と発信)

時期	作業内容
4月	事例フォーマット提示、参加企業募集
4~8月	各社にて情報整理・原稿作成 (日・英) WEBサイトの構築、事例集作成に向けた事例選択
9月(予定)	事例集 (初版) 完成、国際会議等での発信

国際会議での発信実績

- 2月：循環経済・資源効率性に関するグローバルアライアンス (GACERE) 発足
・日本を含む各国政府、国際機関等が参加。今後、年一回のハイレベル会合を実施予定。
- 3月：世界経済フォーラム (WEF) との循環経済ラウンドテーブル会合 (オンライン)
・小泉大臣、オランダ国環境大臣、WEF総裁、杉森副会長などと循環経済について議論。
※J4CE立ち上げについて発信
- 4月：WCEF (世界循環経済フォーラム) と気候変動に関するハイレベル会合(オランダ・オンライン)
・オランダ政府主催。秋の年次総会に向けて、CEとCNについて議論。
- 5月：G7環境・気候・エネルギー大臣会合コミュニケに、グローバル企業及び金融界が規範とすべき「循環経済及び資源効率性の原則(CEREP)の策定」が盛り込まれた。 ※J4CEについて発信
- 7月：G20環境大臣会合コミュニケに、資源効率性・循環経済の良好事例に関するポータルサイトを策定することが盛り込まれた。 ※J4CEについて発信